

運輸業の仕事でよかった話

うれしごと

運輸業界の仕事は大変だけれど、それだけに荷物を届けた相手に喜んでもらえたり感謝されることの多い、やりがいのある仕事でもあります。そんな運輸業界の仕事現場での「うれしごと」を「株式会社 函館食品運輸」のスタッフに伺いました。



トラック乗務員

宮下 伸 さん(47歳)

勤務歴：14年

江差町出身。陸上自衛隊で6年間の任期満了後、トラックドライバーに転身。33歳の時に同社に入社し、全国各地へと車を走らせてお客様へ大切な荷物を届けている。

Schedule ※札幌で1泊する場合

7:00	起床
8:00	出社 出発前に車の洗車、点検などを入念に行う。
9:00	運ぶ荷物を集荷するため、函館市内各地を回る。
12:00	函館を出発。 道中で昼食、休憩をとりながら札幌へと向かう。 天候や道路状況など、仲間と連絡を取り合って情報収集。
17:00	札幌到着 この日はそのまま札幌に宿泊。 翌日 札幌市内で荷物を降ろし、さらに本州方面に運ぶ荷物を積んでから函館へ戻る。



清々しい気持ちで運転ができるよう、キレイに洗車。



安全第一のため、出発前にタイヤの空気圧やナットのゆるみなど、運転する車を隅々までチェックします。



ドライバー仲間や事務所スタッフにあいさつし、事務所を出発。



荷物の集荷を終え、いよいよ目的地に向けて車を走らせます。

上司から

働くワンポイントアドバイス

トラックドライバーの面接を行う時に一番重視しているのは、その人のコミュニケーション力です。例えば災害などがあった時には、どの道が通れるのかなど、他社を含めたドライバー同士と情報交換することで有益な情報が得られます。情報の収集能力を高めるためにも、コミュニケーション力はとても大切な要素なのです。

取締役副社長 高田 潤 さん

体も心もリフレッシュして、いざ目的地へ



この会社では上司、部下に関係なく、従業員は「みんな家族」というような雰囲気があります。そのため、困ったことなどがあれば気兼ねなく、すぐに相談もできます。また、ドライバー同士は離れていても電話で度々連絡を取り合ったりしているため、昔のように一匹狼のようなイメージも今はありません。さらに、長距離ドライバーにとっては、事務所内にシャワー室や洗濯機が完備されているのも助かります。札幌から積んできた荷物を本州へ運ぶ時などは、一度会社に寄ってシャワーを浴び、体も心もリフレッシュさせてから目的地へと向かえます。ドライバーが「いつでも気持ちよく出発できるように」という、会社側の配慮が嬉しいですね。

だから、トラックドライバーはやめられない！



株式会社
函館食品運輸

□住所／亀田郡七飯町字峠下405-4
□電話／0138-65-5056
□http://hakoshoku.net

昭和62年設立。食品を中心とした商品を全国各地に届けている。温度・湿度管理や振動からの保護など、精度の高い運行はお客様からの信頼が厚い。

- Q** 今のトラックドライバーに求められていることは？
- A** 車を運転するだけでなくトラックドライバーではありません。お客様には、自分の会社の顔としても見られていますから、営業マンでもあるのです。お客様が年下であっても敬語を使ったり、相手に良い印象を与えることも大切なことだと思っております。
- Q** この仕事の魅力とは？
- A** お客様から「遠いところからありがとう」と感謝されるのが嬉しいですね。そんな言葉をいただくと、疲れも吹き飛んでしまいます。また、自分のお金を使わずにさまざまな土地に行くことができ、その土地の空気や人々にふれ、時には離れて暮らす知人に会えることも大きな楽しみのひとつです。
- Q** 仕事をすることで普段から心がけていることは？
- A** 第一に事故を起こさないことです。自分たちが運んでいる荷物は、当社のお客様、さらにはその先にも待っている人たちがいるわけですからね。疲れを感じた時は無理せず休養をとるなど、自己管理をしっかりできるように心がけています。
- Q** トラックドライバーを始めたきっかけは？
- A** 陸上自衛隊にいた時、大型免許などを取得しました。実はトラックドライバーへと転職した元自衛隊員も多く、自分も資格を生かしたいと思い、任期満了後に除隊してトラックドライバーの仕事に就きました。元々、車の運転が好きだったこともあり、働いてからも「自分に合っている職業だな」と感じましたね。